

# AKITA Biz Forest

あきたBizフォレスト TOPインタビュー

## TOP INTERVIEW

学校法人聖霊学園理事長 聖霊女子短期大学学長  
マッテュ・フィリップ 氏

1965年生まれ。インド(ケララ州)出身。Mysore大学総合政策学部卒業、学士、インドの哲学教育機関Vidyaniketanで哲学コースを修了、1989年南山大学留学生別科で日本語学習、名古屋大学大学院国際開発研究科国際協力専攻修士修了・修士、同志社大学大学院グローバル・スタディーズ研究科博士課程修了・博士。専門は哲学、経済学、国際協力、宗教学、グローバル社会学、南アジアビジネス文化、リーダーシップコーチング、グローバル教育。名古屋や長崎の高校や大学で教鞭をとり、幼稚園長、愛知県幼稚園連盟の理事、2020年、学校法人聖霊学園理事、聖霊女子短期大学副学長・教授。2021年、同学園理事長、同短期大学学長・教授。

### リーダーシップは「人を幸せにする力」

**工藤** 本日はよろしくお聞きします。まずはフィリップさんの経歴をお聞かせください。

**フィリップ** 1965年に、インド南部ケララ州のチッタリカル(Chittarikkal)という人口1.5万人くらいの小さな町で生まれました。香辛料などの農業が盛んな町です。自然豊かなところで、友達とバレーボールやサッカー、山登りなどをして遊んでいました。教育は100%受けられる州でした。高校2年生までは母国語のヒンディー語で教育を受け、その後は公用語である英語で教育を受けました。高校から親元を離れて寮に入り、仲間と過ごした思春期は楽しかったです。高校時代から政治運動にも参加していました。インドでは各政党に学生部があり、学生も政治運動に参加できました。その頃は実際に政治家になりたいとも思っていました。大学では経済学や社会学を学びました。

**工藤** 日本には、いつ頃どんなきっかけで？

**フィリップ** 1989年に、日本経済を学ぶためと海外経験を積むために、名古屋の南山大学へ留学したことがきっかけです。その後、名古屋大学大学院で国際開発を学び、同志社大学大学院でグローバルスタディーズの博士号を取得することができました。

**工藤** それは素晴らしいですね。その後お仕事はどのようなことを？

**フィリップ** 高校の教師をしながら、教会でも働いていました。また、ボランティア活動として、フィリピンやブラジルのストリートチルドレンを支援する活動も行っていました。路上で生活している彼らが非行に走らないよう、ストリートチルドレンによる劇団を運営するボラン

ティア団体があるのですが、日本でも、東京・大阪・名古屋で公演をし、日本の学生を現地へ連れて行ったこともあります。その中で、どんな教育をしたらグローバルな視野を広げてチャレンジできる人材が育つのかを研究していました。そういったことが好きだったので、とても楽しく充実した毎日でした。

その後、幼稚園の園長として働いていたこともあります。その時もグローバル精神はどうやって育つのか？また幼児から学べるグローバル教育を研究しカリキュラムを作りました。次は高等教育も研究したいと考えていた頃、ちょうど聖霊女子短期大学の前学長とのご縁があり、秋田へ来ることになりました。2020年に来たときは、副学長として赴任し、その後2021年からは学長を務めさせていただいております。今の時代は、デジタル社会・グローバル社会・地域社会の3つで成り立っていると思っています。学生たちがこの3つの社会フィールドで活躍するため、リーダーシップ教育とビジネスを組み合わせた授業も行なっています。知識を与えるだけではなく、学んだ知識や技術を使った実践の場を作ることで、「地域を幸せにしたい」と思うリーダーを育てていきたいです。「リーダーシップ力=人を幸せにする力」だと考えていますが、そのような教育プログラムを進める上で、秋田の環境は最適だと思っています。大き過ぎず、小さ過ぎない街こそが、その心が育ちやすいと考えています。

**工藤** なるほど、今までその視点を持ったことがありませんでした。確かに大きな街ほど、リーダーシップよりマネジメントの比重が大き

なってしまうのかもしれない。

**フィリップ** そうです。世界で活躍する起業家や政治家の多くは、人口70万人以内の小さな街で生まれ育っているというデータがあります。小さな街の方が、イノベーションする心を育てやすいです。リーダーシップにおいて、イノベーションする心を育むことはとても大切です。例えば、本校ではイノベーションラウンジを新設し、日常的にロボットと触れ合い、プログラミングなども自由にできる環境も整えました。日々の生活や学びの中でふと思いついたことを、ロボットを使って試してみることができます。私たちは「超育」と呼んでいますが、学生に自由な発想を促すことで、日常に小さなイノベーションを起こしてもらい、それをイノベーションに発展させる思考を体感してもらいたい。そんな想いがあります。このような環境を、地元企業と研究しながら作っています。イノベーションラウンジの他、自己コーチングスペースも2023年度に新設しました。これは、「自己リーダーシップ=自分自身を幸せにする力」を磨くためのものです。鏡の中の自分に励ましの言葉をかけたり、姿勢を正して歩いてみたり、今の感情をボールの色で示したりと、自分と向き合える空間になっています。以前より学生が学内で過ごす時間が増え、学生同士の交流も増えました。1人しか友達がない社員より、100人の友達がいる社員の方がより良い仕事ができると思います。これからの時代は人と繋がる力も大切です。だからこそアナログデジタル問わずコミュニケーション力は極めて重要だと思っています。

あきたBizフォレストTOPインタビューは、秋田の起業家と企業環境を応援することを宣言いただいた100名以上の経営者の皆様を中心に、起業家に役立つ話題と起業家へのメッセージを対談形式でまとめたものです。

**工藤** 全くその通りですね。デジタルが進化すればするほど、むしろコミュニケーション力がより重要なスキルになっていると感じます。さて聖霊女子短期大学の経営課題は何ですか？

**フィリップ** 直近では、リーダーシップ育成プログラムの研究者を集めることが課題です。今は県外から研究者に来てもらっているのですが、できるだけ秋田で研究者を増やし、この教育プログラムを秋田から世界に広げたいと思っています。いずれは60か国の学生と一緒に暮らしながら、留学や卒業論文を書くだけでは得られないリーダーシップ力を育てるプログラムが完成できたらと考えています。

**工藤** 秋田にはそれができるチャンスや伸びしろがあるということですね。ところでフィリップ学長は秋田でのビジネスにおいて、どんな分野に注目していますか？

**フィリップ** 注目したいのは教育ビジネスとグローバルビジネスです。特に幼児教育のカリキュラム開発などはたくさん可能性があると思います。幼児教育は世界的にもまだまだ研究不足で、昔のままという国も多いですし、日本もそれほど進んではいません。幼児期から遊びを通じて、自分の力を100%伸ばす力を育ててあげることが大事です。その環境を作

れる保育士や先生を育てること、教育のカリキュラムを作ることが秋田でできたらいいですよ。おそらく秋田はその研究地として最適だと思います。四季がしっかりしていて、街がコンパクトで結果が見やすい。家族との時間を大切にしている人が多いのも大切な点です。以前名古屋で同様の研究をしようとしたが、当時都会の難しさを実感しました。

**工藤** なるほど深いですね。ではグローバルビジネスについてはどうですか？

**フィリップ** 本学ではフードビジネスを視野に入れたいと考えています。お米やお酒など、日本で作らなくてもその技術を持って海外で起業できる人材を育てていきたいです。

**工藤** なるほど、お酒は日本で作るものというイメージがありましたが、そうじゃなくてもいいという発想ですかね？例えば、秋田の酒造りをインドやアフリカでしようとすると、水や気候が違うので全く違うお酒ができてしまいそうな気がします。

本日は貴重なお時間とお話しを本当に有難う御財増した。

インタビュー

合同会社ジェグルス(共同事業体ジェイワン)アントレプレナーコンシェルジュ 工藤 実

ライター J'MOTHER'S 藤田 ゆうみん

企画 共同事業体ジェイワン(秋田市ビジネススタートアップ支援事業)

